

1 GAPの目的、意義を学ぶ

GAPの必要性への理解を高める取組を、関係する各科目の授業内容で取り入れる（学習指導要領の生産に係る科目に、GAPが記載）。

【主な視点】

- 食品の安全を守るためには
- 農業の現状と国際競争力
「安さ＝輸出競争力」から「品質や安全性＝輸出競争力」へと思考の転換
- GAPの考え方とは
「5S」の考えに基づく、日々の取組を「見える化」する。
GAPの5つの柱を理解し、実践に向けた検証を行う。



GAP 5つの柱 「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」

主なGAP実施による経営改善効果

- 従業員の自主性の向上
- 販売先への信頼
(営業のしやすさ)
- 資材の不良在庫の削減
- 生産・販売計画の立てやすさ
- 品質（等級・規格）の工場

(独)農業・食品産業技術総合研究機構
アンケート調査結果より(H25.1)

2 農業高校におけるGAP教育の実践

主体的、対話的な日々の学習を通じて、学校農場の在り方について理解を深め、実践力を身に付ける。

GAPに取り組む「実施」

GAP認証を取る「認証」

第三者機関からの審査による認証取得

- 1年次 対象科目「農業と環境」「総合実習」
目標や意義等、GAPの基礎を学び、実習を通じて点検や整理整頓等を実践する。
⇒ 農林水産省 オンライン研修の活用
- 2、3年次 対象科目「作物」「野菜」果樹
「畜産」「農業経営」「総合実習」「課題研究」等
計画段階から取り組む発展的な学習を実践する。
 - ① GAP認証の基準書を基に、学校農場のリスクについて検証する。
 - ② 対応マニュアル、点検項目を作成する。
 - ③ 実習時における点検等の在り方を計画する。
 - ④ 事故の未然防止のための標示物の整備等、情報の共有化を図る。
 - ⑤ 課題が発見された場合の対応について、互いに意見を出し合いながら協議する、等。

グローバルGAP、JGAP、FGAP等、取得目標、作目を設定。



審査に向けて、生徒が取り組む主な内容

- 1 審査までのスケジュールを計画する。
- 2 チェックリストによる確認を実施する。
 - ① 施設の整理、改善点の確認
 - ② 記録の整備
 - ・ 作業日誌、農薬使用記録
 - ・ 有事対応マニュアル
- 3 審査当日の動きを確認する。
 - ① 生徒の役割分担(案内役等)
 - ・ 書類審査と圃場状況の流れを確認
 - ・ 審査員の質問事項等を準備
 - ② 審査の公開／非公開を検討 他

GAPの成果を生かした農業経営、マーケティング等、学習内容の拡大と深化を図る(経営感覚の醸成)

1 農業高校の育成すべき人材と取組の成果

生徒にGAPに基づく農業経営を主体的に学習させることにより、生産技術の習得に加えて、六次産業化やマーケティング等の視点を有する**経営感覚を兼ね備えた人材**として必要な資質・能力の育成に資する。そのため、秋以降のGAP認証取得のための審査に向けて、各校の取組を前進させる。

>>就農及び農業関連産業への就業者数の増加につなげる

2 GAP取得を目指す未来の農業者交流事業

GAPの取組について、県外の先進校と交流を図ることにより、農業に対する誇りと自信を育み、各校のリーダーを育成するとともに、**国際的に通用する経営感覚**を身に付けさせる。各校から代表生徒6名を派遣し、授業の見学、意見交換を行う。

平成30年度 各県立高等学校におけるGAP認証取得の予定

学校名	GAP認証	認証品目
福島明成高等学校	J-GAP穀物・青果物	(新)モモ、トウモロコシ、サツマイモ (継)米、トマト、ミニトマト、他4種
安達東高等学校	J-GAP青果物	(新)たまねぎ、なす、ねぎ
岩瀬農業高等学校	GLOBAL G.A.P.	(新)米、トマト、キュウリ、果物
小野高等学校	J-GAP穀物	(新)米
白河実業高等学校	J-GAP穀物	(継)米
修明高等学校	検討中	(新)野菜
耶麻農業高等学校	J-GAP穀物	(新)ソバ (継)米
会津農林高等学校	GLOBAL G.A.P.	(新)米、小菊かぼちゃ
磐城農業高等学校	J-GAP穀物・青果物	(新)トマト、ナシ (継)米
相馬農業高等学校	J-GAP穀物	(新)ジャガイモ

